

窓

京都新聞 令和2年(2020年)2月12日(水)

迫る卒業と就職 不安次々

和束町・上嶋 亜美(大学生・22)

大学4年生で卒業まであとわずかとなった今思うことは、将来のことである。就職先も決まり安心した半面、しっかりと働くことができるだろうか、トラブルなく働けるだろうかなど、たくさん不安要素が

次から次に生じる。

周りの友人には、自分の本当にしたい仕事に就いた者もいればそうでない者もあり、取りあえず就職したという者もいる。

不安を周囲に話しても、「何とかなるよ」「取りあえず5月まで」と言われることが多い。

私はこれまで「何とかなる精神」で生きてきたので、

周りからそのような言葉が返ってくると「大丈夫」と思えるが、今まで生きて来た倍以上の時間を働くのだと考えると、不安は消えない。

至らないところばかりで不安や緊張しかない今、働いている人たちはすごいなと心の底から尊敬するし、家族を支えてくれている両親には感謝しかない。

これからの長い長い時間を考えるよりも、22年間の学生生活が終わる今を、全力で楽しみたい。

※無断転載不可